

第2編では、時代の潮流や長野県のポテンシャルを踏まえ、私たちが次の世代に引き継ぎたい「未来の信州」を5つの将来像として明らかにしました。

これら一つひとつを山の頂と例えるとすれば、私たちは、この5つの頂をめざし、目の前に立ちほだかる様々な困難を乗り越え、進んでいかなければなりません。

そのためには、長野県の良さを守り、強さを磨き上げるとともに、経済成長一辺倒の社会や東京中心の論理に基づく評価軸を転換することにより、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」を県民とともに創造していくことが必要です。

そこで長野県は、今後5年間の政策推進の基本方針として次の3つを掲げ、県行政と県民の英知を結集するとともに、「県民参加と協働」を政策を進める際の基本姿勢とし、その実現をめざします。

なお、これらの方針を進める上においては、暮らしを支える基盤となる、福祉や防災、交通、情報通信基盤の整備なども着実に進めていきます。特に、高度経済成長期を中心に整備されてきた橋梁、トンネルや建物などの県有施設は大規模な補修や更新の時期を迎えており、引き続きファシリティマネジメント*の視点に立って適切な維持・管理に努めます。

方針1 「貢献」と「自立」の経済構造への転換

～信州の強みに立脚した「貢献」と「自立」の経済構造への転換～

長野県の技術力や豊かな自然環境、多様な農林水産物などを活かし、独創的な研究開発や生産技術、6次産業化*、さらには「おもてなし」の向上などによって商品やサービスなどの「質」を追求し、世界に評価され、貢献できる付加価値の高い産業づくりを進め、力強く安定した経済をめざします。

合わせて、自然エネルギーの活用や水・食料の確保などにより、地域の自立を支えます。

(方針に基づく具体的な政策)

技術集積と起業家精神を基礎とした次世代産業の創出

観光と農林業を基礎とした農山村産業クラスター*の形成

地勢と知恵を基礎とした環境・エネルギー自立地域の創造

方針2 豊かさが実感できる暮らしの実現

～安心・満足・誇りを得られる信州ならではのライフスタイルの充実～

長野県には先人が築いてきた全国トップクラスの健康長寿、全国一の就業率の高さ、美しい景観・自然環境や優れた伝統・文化に囲まれた暮らしがあります。そこで、県民みんなで取り組む健康づくりや医療提供体制の充実、雇用環境や社会参加の仕組みの整備、景観・自然・文化を守り育てる施策の充実など、信州ならではのライフスタイルの基盤を強

化する取組を進め、豊かさが実感できる長野県を実現します。

(方針に基づく具体的な政策)

「安心」して暮らすための健康づくりと医療の充実
「満ち足りた」暮らしのための雇用と社会参加の促進
景観・自然・文化に囲まれた「誇り」ある暮らしの実現

方針3 「人」と「知」の基盤づくり

～地域の課題を自ら解決できる「人」と「知」の基盤づくり～

未来の信州を実現していく原動力であり、地域の産業や暮らしを支える礎となるのは「人」と人々の持つ「知」です。未来を切り拓く知恵と行動力を持った人材が育つ知の拠点づくりとともに、人口減少の抑制や社会活動に参画する人の増加に取り組みます。

また、地域の課題を県民や市町村などと知恵を出し合い協働して解決する県政を実現します。

(方針に基づく具体的な政策)

信州を元気にする「活動人口」の増加
良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成

(計画を推進するための基本姿勢)

県民参加と協働により地域課題を解決する県政の強化

< 発信 > 「信州」の価値向上と発信

～信州の強み、信頼性、信州人の誇りなど「信州」の価値を向上させ、
統一感のあるブランドとして発信～

長野県の強みを活かしながら信州らしさに磨きをかけ、「信州」の持つ価値をさらに向上させていく都道府県レベルでは日本初の総合的なブランド戦略により、「信州」の統一感のある発信を行います。

(発信するための具体的な政策)

- ・ 県民総参加による「信州」の誇りある発信と新たな「価値」の創造

【用語解説】

ファシリティマネジメント：土地、建物、工作物などの財産を経営資源と捉え、総合的かつ長期的な観点によりコストと便益の最適化を図りながら、財産を戦略的かつ適正に保有・処分・維持・利活用する手法

6次産業化：第1次産業（農林水産業）が第2次産業・第3次産業と連携、異業種交流し、経営の複合化・多角化を進めること。

クラスター：本来「ぶどうの房」を意味するが、経済用語としては、「特定分野における関連企業、サービス提供者、関連機関（大学、業界団体など）などが地理的に集中し、競争しつつ同時に協力している状態」